

平成27年度研究成果中間報告書《平成27年度指定教育課程研究指定校事業》

都道府県・ 指定都市番号	1	都道府県・ 指定都市名	北海道	研究課題番号・校種名	2 中学校
				教科・領域名	社会
研究課題	学習指導要領の指導状況及びこれまでの全国学力・学習状況調査結果から、学習指導要領の趣旨等を実現するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究 ○問題解決的な学習を中核とする単元構成の工夫改善に関する研究				
ふりがな 学校名（生徒数）	ほっかいどうきょういくだいがくふぞくほこだてちゅうがっこう 北海道教育大学附属函館中学校（329人）				
所在地（電話番号）	北海道函館市美原3丁目48番6号（0138-46-2233）				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.hak.hokkyodai.ac.jp/~f-chug-m/				
研究のキーワード	単元を貫く学習課題，単元構成表，ワークシート				
研究成果のポイント	○ 「単元を貫く学習課題」を追究し続ける学習活動によって，単元を構成する1単位時間で習得した知識・技能を活用するとともに，社会的事象に対する多面的・多角的な見方や考え方に基づいて自分の考えを記述することができるようになった。 ○ 「単元を貫く学習課題」を追究し続ける学習活動の継続によって，新たな問題に出会った時に社会的事象や社会的な問題が様々な側面を有していることや，立場によって見方や考え方が異なることを踏まえて，最初から多面的・多角的に課題を捉えることができるようになった。 ○ 単元前における「単元を貫く学習課題」に対する学習者のワークシートへの記述を診断的評価の手段として，単元を構成する1単位時間ごとの授業末における学習者のワークシートへの記述を形成的評価として機能させることができた。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

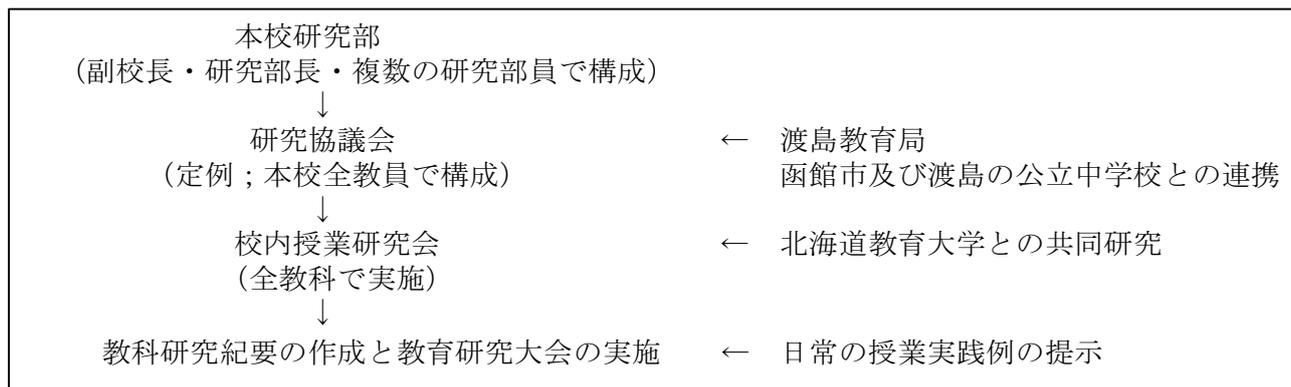
問題解決的な学習を中核とする単元構成の工夫・改善
 ～「単元を貫く学習課題」の設定に基づいた指導方法等の工夫・改善～

(2) 研究主題設定の理由

本校では，平成25年度に「今，求められる21世紀の学力の育成を目指して」という学校研究主題のもとで，これからの社会において求められる資質や能力の育成を目指した研究計画を立て，各教科における基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習の工夫，開発や，その検証改善サイクルの整備を行い，一定の成果を上げることができた。しかし，言語活動を取り入れた思考力・判断力・表現力の育成を，より一層意図的・計画的に行う必要がある。

そこで，社会科（主に公民的分野）において，単元を通して追究する学習課題設定の工夫，問題解決のプロセスに応じた指導方法の検討，習得した知識や技能がどのように活用されているかの整理及びそのために求められる指導方法の検討などを通して，問題解決能力の育成を目指し，本研究主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組

平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・本校及び渡島管内公立中学校での過去の授業実践における学習課題の整理・分析の実施 ・特に重点的に取り組む4つの単元での単元構成表の作成 ・校内研究授業（社会科第1回）「(1)私たちと現代社会 イ 現代社会をとらえる見方や考え方」の実施（7月21日） ・本校教育研究大会における公開授業の実施及び「単元を貫く学習課題」に関する参会者への提案・協議（10月30・31日） ・校内研究授業（社会科第2回）「(2)私たちと経済 イ 国民の生活と政府の役割」の実施（11月19日） ・国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業研究協議会での実践発表・研究協議（2月2日）
----------------	---

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

①「単元を貫く学習課題」設定の工夫・改善

主に公民的分野において、単元の指導目標の達成のために、生徒が単元を通して追究し続ける学習課題である「単元を貫く学習課題」設定の工夫・改善に取り組んだ。課題設定に当たっては、平成26年度までの本校及び渡島管内公立中学校での授業実践における学習課題の整理・分析を行った。また、設定した学習課題の適正性は、生徒によるワークシートへの記述状況に基づいて検討を行った。なお、今年度は「(1)私たちと現代社会 イ 現代社会をとらえる見方や考え方」、「(2)私たちと経済 イ 国民の生活と政府の役割」、「(3)私たちと政治 イ 民主政治と政治参加」、「(4)私たちと国際社会の諸課題 ア 世界平和と人類の福祉の増大」において取り組んだ。

②単位時間の学習課題及び習得すべき知識・技能等を整理した単元構成表の作成

「単元を貫く学習課題」解決の要素となりうる1単位時間における学習課題を設定するとともに、問題解決的な学習のために習得すべき知識・技能等を整理した単元構成表を作成した。作成にあたっては、学習指導要領の趣旨や設定した「単元を貫く学習課題」、当該単元と小学校社会の内容及び中学校社会の他分野の内容との関連の整理・検討を行った。なお、本表を作成した単元は、①に示した単元と同一である。

(2) 具体的な研究活動

① 「単元を貫く学習課題」設定の工夫・改善

ここで言う「単元を貫く学習課題」とは、単元前、単元を構成する1単位時間ごとの授業末、単元の学習後に取り組む学習課題であり、同一の学習課題を問い続けるという問題解決的な学習の展開を意図的・計画的に行うことを目的としている。また、学習者にとっては、同じ学習課題に対する自らの記述の変容によって知識や技能の習得や見方や考え方の高まりを実感でき、授業者にとっては、その学習者の変容を的確に把握できるという意義を有している。

各単元で設定した「単元を貫く学習課題」は、次表の通りである。

単元	単元を貫く学習課題
(1)イ	職員会議で、次のようなルールがつけられました。「附属中学校の生徒は、校内において携帯電話やスマートフォンを所持・使用することができる。」あなたはこのルールをどのように考えますか？(A このままでよい B 変更すべき C 廃止すべき)
(2)イ	2019年4月1日からの消費税率22%への引き上げに賛成か、条件付賛成か、反対か？
(3)イ	まちの課題を解決し、よりよいまちにするためには、誰が何をすべきか？

「単元を貫く学習課題」の設定にあたって、本校及び渡島管内公立中学校での授業実践における学習課題を整理・分析した結果、「(仮想の状況における)学習者自身の立場から記述を求めるもの」と「第三者的な立場からの記述を求めるもの」に大別された。そこで今年度はその両方を「単元を貫く学習課題」として設定し、生徒の学習へ与える影響やよりよい単元・授業構築のために留意すべき点に関する検討を行うこととした。

② 1単位時間の学習課題及び習得すべき知識・技能等を整理した単元構成表の作成

1単位時間の学習活動を「単元を貫く学習課題」の追究に資する展開とするため、本校社会科で取り組んだ平成21・22年度国立教育政策研究所研究指定の研究成果を生かし、「単元を貫く学習課題」追究の要素となる学習課題を単位時間ごとに設定した。具体例として、(2)イ「2019年4月1日からの消費税率22%への引き上げに賛成か、条件付賛成か、反対か？」では、消費税が課題追究の中核となるため、1単位時間ごと学習課題において、消費税や現代社会の特徴、増税が景気に与える影響等を追究させた。また、そのために習得すべき知識や技能等は、主に教科用図書の記述を基に整理した。

時間	1単位時間ごとの学習課題
1	直接税と間接税の比率はどのようにあるべきか？
2	増税は景気にどのような影響を与えるか？
3	日本の社会保障制度を支える財源は何か？
4	少子高齢化の中で社会保障を充実させるためには、どのような方法があるか？
5	公害防止と環境保全のために、財政に何ができるのか？

さらに、単元構成表における「小学校社会の内容との関連」及び「中学校社会の各分野との関連」の設定にあたっては、小学校学習指導要領解説社会編、中学校学習指導要領解説社会編に加え、本校で使用する他分野及び渡島管内小学校で使用する教科用図書の記述の分析・検討を行った。その際、当該単元における中核となる語句を設定し、その語句及びその語句に密接に関係する事象を説明する箇所を単元構成表に整理することとした。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

○「単元を貫く学習課題」を追究し続ける学習活動の展開によって、単元を構成する1単位時間で習得した知識や技能を活用するとともに、社会的事象に対する多面的・多角的な見方や考え方に基づいて自分の考えを記述することができるようになった。具体的には、(1)イ「現代社会をとらえる見方や考え方」における仮想のルール制定過程及び内容を中核とした学習課題への追究（平成27年6月実践）によって、単元前には主に生活経験に基づいた漠然とした記述であったものが、1単位時間ごとの学習後に「単元を貫く学習課題」に向き合い続ける中で、効率と公正といった見方や考え方を踏まえた記述（判断）となったり、ルールの制定過程に着目して対案を提示することができるようになったりした。

○「単元を貫く学習課題」を追究し続ける学習活動の継続によって、社会的事象や社会的な問題が様々な側面を有していることや、立場によって見方や考え方が異なることを踏まえて、新たな問題に出会った時に最初から多面的・多角的に捉えることができるようになった。具体的には、平成27年11月に実践した(2)イ「国民生活と政府の役割」における消費税を中核とした学習課題への追究にあたって、単元前の記述から租税の特徴や制度、増税による家計（消費者）への影響、財政における国債発行残高等を踏まえた記述が多く見られた。

○「単元を貫く学習課題」に対する単元前の学習者のワークシートへの記述は、学習者のレディネスを把握する診断的評価の手段として機能させることができた。また、「単元を貫く学習課題」に対する学習者の記述を1枚のワークシートに継続して記述させたため、単元を構成する1単位時間ごとの授業末における学習者のワークシートへの記述は、各時間の指導目標に対する達成目標を把握し、各生徒に個別的・具体的な指導を行うための形成的評価として機能させることができた。

(2) 課題

○「単元を貫く学習課題」は、学習者が主体的・意欲的に取り組めるものを設定するべきであるが、今年度の研究では、育むべき力に基づいて授業者が設定したため、今後は学習者の内面に生じる疑問や問題意識に基づいた学習課題を設定するための方法を検討する必要がある。また、「単元を貫く学習課題」を各単元で完結させるのではなく、「単元を貫く学習課題」をさらに貫く視点も考えられ、その具体的な視点がどのようなものになるのかという検討も必要である。

○今年度作成した単元構成表は、「小学校社会の内容との関連」及び「中学校社会の各分野との関連」において、学習指導要領での整理番号を示すのみにとどまった。そのため、実際に単元や授業を構築するための資料とするためには、小学校及び他分野との関連を視覚的に把握しやすい図式化したものへと改善する必要がある。同時に、「問題解決的な学習のために習得すべき知識・技能等」は、それらを活用する時期と内容を明確にした上で、より精選を図っていく必要がある。

○単元における指導目標への到達状況を評価する総括的評価について、今年度は複数の社会科教諭が「単元を貫く学習課題」に対する学習者のワークシートへの記述（主に単元の学習後のもの）を評価する方法をとった。こうした方法とともに、単元を貫く学習課題への取組によって学習者に具体的にどのような力を育むことを目指しているのかをより明確にした上で、より簡便で汎用性の高い方法や定期テストでの問題解決能力を測る設問についても検討する必要がある。

(3) 研究2年目へ向けての取組

学習者が主体的・意欲的に追究し続けることができ、年間を通した視点と育みたい力をより明確にした「単元を貫く学習課題」へと改善を図っていく。また、その解決のために活用する知識・技能等の諸要素を再び整理するとともに、その関連を図式化して整理していく。